



# 那古野一丁目地区・ 景観まちニュース

## 子守地蔵尊・屋根神様・ 閑所のある風景

地域情報や観光情報などの雑誌、ホームページでこの地域のことが紹介される際に、四間道から一本入った通りにある子守地蔵尊と屋根神様の写真が使われることがよくあります。このお堂と祠は、地域特有の閑所(かんしょ)と呼ばれる路地空間にあり、その起源は、市の計画である名古屋市歴史的風致維持向上計画(2014年2月14日国認定)から推測できます。まず、子守地蔵尊は、明治初めに路地の井戸から地蔵尊が出てきたという伝承があり、「明治廿八年 再建地蔵堂」と記された棟札から、明治初期頃には地蔵尊が祀られていたと考えられています。現在のお堂は昭和



45(1970)年に寄付を募り改修されています。また、屋根神様は、祭具箱の蓋裏に明治21(1888)年の年紀があり、古くから管理がなされ、今の祠の建築年代は地元に残る「天神社再建寄附金名簿」から昭和5年(1930)年と推測されます。

### かつて運動会も行われた！

この閑所の周辺で40年ほど前に撮影された写真を、沢井北町内会の伊藤新平さんからお借りすることができました。たくさんの子どもが遊び、お母さん達はエプロンにつっかけ(今風でいえばサンダル)を履き、お父さん達はシャツ一枚で外に出てくるなど、当時の様子をうかがい知ることができます。毎年八月に行われる子守地蔵尊のお祭でおみこしを



担ぐ様子のほか、運動会の様子やあの国民的漫画のキャラクターの張りぼてを飾った様子など、今では考えられないような活用が道路で行われていました。

令和の時代になっても、地元のみなさんで大切にされている子守地蔵尊・屋根神様と閑所は、次世代に引き継いでいくべき貴重なまちの財産ですね。



## 私達が支えます！！

景観まちづくり推進委員会で、この地区に想いがある建築、不動産活用、まちづくりの担い手や大学教授など様々なメンバーが運営を支えています。ここでは、それぞれの活動や日頃考えていることを紹介します。

お店がたくさん増え、賑やかな那古野になりました。新しいお店があつて、老舗があつて、何よりも地域に住んでいる人がいる、そんな日常のあるまちであつてほしい。これからも皆さんと一緒に住みやすい那古野でいられるよう取り組んでいきたいです！



(株) ナゴノダナバンク

市原正人・藤田まや・斎藤正吉

## プロトレイルランナーの発言

2009年世界最高峰のウルトラレイルレース(3カ国周回、走距離166キロ)に世界3位で入賞した鍋木毅さんは世界中を歩いて、こんな発言をしています。

「日本の主要都市を見ても、東京スカイツリーや名古屋城、通天閣などシンボルはあつても、面としての景色はあまり変わらず、どこも同じように見える。懐かしさを感じさせる街並みも再開発の名のもと、年々失われていくばかり。人口が減少し、新興住宅に皆が住みたいためだろうか、無秩序に30年程度の耐久年数の建物が建築されている、見過ごして歩いてよいのだろうか」

「一方、欧州の街は石やレンガといった耐久性のある建物である点や、地震がめつたにないという条件も手伝つてか、古いものを壊して一からつくり直すのではなく、今あるものを修理しながら後世に引き継ぐのが一般的らしい。古い街並みをリノベーションしながら現在に残すという考え方に魅力を感じる」

那古野一丁目地区景観まちづくりを担う私達にとって、考えさせられる言葉ではないだろうか。

四間道・那古野界隈まちづくり

協議会代表 福谷正男



## 愛知淑徳大学創造表現学部 建築・インテリアデザイン専攻

吉元ゼミ

愛知淑徳大学吉元ゼミでは「那古野・堀川周辺」にて設計演習を毎年行っています。学生の考える破天荒なアイデアですが、この街に住む方々の将来の夢や街づくりのキツカケにつながれば嬉しいです。発表会も開催していきますので機会があればご覧ください。

わたくし自身が替地町に住みだして5年になります。歴史のある那古野に越してきて住民として街にできるこ



とを模索しています。ご意見があれば是非お教えください。

愛知淑徳大学教授 吉元学



## 那古野の街並と営みを残したい

そう願ったのは那古野小学校を卒業して15年が経った2012年。久しぶりに地元を訪れると外壁が剥がれ落ちた蔵が誰からも干渉することなく平然とたたずみ、子供の頃にワクワクした活気のある街並は、他の地方都市同様に乱開発の波に飲み込まれているようでした。そこから10年、景観協定地区内で、店舗開発を中心に40件ほどの実績を積み重ねて頂きました。

街並にあった古民家活用と不動産取引が強みですので、それを活かして良好な景観づくりのお手伝いをさせていただきます。

(株)不動産工房 伊藤維雄



## 美濃路まちづくり

推進協議会 白井鏡造



五条橋ポケットパーク提案実現

美濃路は東海道宮宿から中山道垂井宿を繋ぐ約58kmの歴史街道。そこに残された町並みや史実は、私達の心を揺さぶります。美濃路まちづくりが始まり23年、清洲城から名古屋城までのまちづくりは、現在、四間道・那古野界隈のまちづくりに力を注いでいます。この推進委員会には、H24年の四間道・那古野地域立ち上げ団体会議(第一回)以来、ずっと参加してきました。

これからが本番。この地域が育むまちほどの様な姿を見せるのでしょうか。

## 2010年から、四間道・那古

野一丁目地区内の、建物見学や清掃ボランティアを行ってきました。中でも、2017年8月から翌年2月にかけて3回の”四間道かわら版”作成には、地元有志の方々とワークショップを開催し、地域の成り立ち・現状・今後のあり様を話し合い、周辺を含む地区内への発行ができました。

この地区にお住いの皆様の”まちへの愛着”を大切に、既にある”まちの魅力”を伝えながら、ご

普段は、東海3県をフィールドとして、まちづくりの調査・計画づくりに携わっています。那古野一丁目地区とご縁ができたのは2012年。町並みやお住まいの人々などによる地域のコミュニティを維持しつつ、休日には街を歩く人々が少しずつ増えてきたと感じています。

景観まちづくり活動を通じ、お住まいの皆さまからより深く魅力を教わり、地区の魅力発信に取り組んでいきます。よろしくお願ひします。

## 一緒に活動できたらと思います。

公益社団法人愛知建築士会

名古屋西支部 牛田信彦



## 四間道・那古野界隈まちづくり

協議会事務局 浅野健



景観協定の加入地が増えました

令和3年6月、名古屋市内認可された「那古野一丁目地区景観協定」の地区内にて、10月と12月に新たにご同意をいただきましたのでご紹介します。

新たな加入地を合わせて、締結率（土地面積）は約72%になりました。

ご同意いただき、ありがとうございました！



■ 新規加入地  
□ 景観協定地区  
（協定を締結していない地区を含みます）

まちづくりアンケートへの

ご協力の御礼

昨年12月に配布された「四間道・那古野一丁目地区まちづくりルール（地区計画）に関するアンケート」にご協力いただきありがとうございました。

集計結果につきましては、3月下旬のご案内を予定しております。

なお、締切日は1月31日となっておりますが、まだご回答がお済みでない方は、ご回答にご協力いただけますようお願いいたします。

回答方法

- ① 返信用封筒による郵送
- ② 町内会長への手渡し
- ③ メール  
[a2734@jurtakutoshi.city.nagoya.lg.jp](mailto:a2734@jurtakutoshi.city.nagoya.lg.jp)

ご不明な点等がございましたら、名古屋市住宅都市局 都市景観室（972-2734）までお問い合わせください。

## 景観まちづくり推進委員会の活動を応援してくれる 店舗・企業さんを募集しています！！

景観協定は10年間効力があり、地区の住民が中心となって景観まち（景観まちづくり）推進委員会を組織し、景観や住環境を守り育てる活動を進めていきます。この活動に賛同いただける店舗や企業さんからの協賛金を募集しています。

協賛金は、景観まちづくり推進委員会が行うニュースの発行、事前協議をはじめとする運営資金に活用します。賛同していただける店舗や企業さんには特典もあります！

少しでも興味を持ってくださった方は、事務局までぜひご連絡ください。

協賛金：101万円／年

特典：①ニュースで店舗・企業さんの紹介記事を掲載

②ニュースにバナー広告掲載

③ホームページ（今年度作成予定）上でのバナー広告掲載

④景観まち推進委員会のロゴ入りステッカー